令和８年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト
出題教科・科目の出題方法等

教科	グループ	出題科目	出題方法 （出題範囲，出題科目選択の方法等） 出題範囲について特記がない場合，出題科目名に含まれる学習指導要領の科目の内容を総合した出題範囲とする。	試験時間（配点）
国語		『国　　語』	・「現代の国語」及び「言語文化」を出題範囲とし，近代以降の文章及び古典（古文，漢文）を出題する。	90分(200点) **（注１）**
地理歴史 公民		『地理総合，地理探究』 『歴史総合，日本史探究』 『歴史総合，世界史探究』 『公共，倫理』 『公共，政治・経済』 →(b) 『地理総合／歴史総合／公共』 →(a) (a)：必履修科目を組み合わせた出題科目 (b)：必履修科目と選択科目を組み合わせた出題科目	・左記出題科目の６科目のうちから最大２科目を選択し，解答する。 ・(a)の『地理総合／歴史総合／公共』は，「地理総合」，「歴史総合」及び「公共」の３つを出題範囲とし，そのうち２つを選択解答する（配点は各50点）。 ・２科目を選択する場合，以下の組合せを選択することはできない。 (b)のうちから２科目を選択する場合 『公共，倫理』と『公共，政治・経済』の組合せを選択することはできない。 (b)のうちから１科目及び(a)を選択する場合 (b)については，(a)で選択解答するものと同一名称を含む科目を選択することはできない。**（注２）** ・受験する科目数は出願時に申し出ること。	１科目選択 60分(100点) ２科目選択 130分**（注３）** （うち解答時間120分） (200点)
数学	①	『数学Ⅰ，数学A』 『数 学 Ⅰ』	・左記出題科目の２科目のうちから１科目を選択し，解答する。 ・「数学A」については，図形の性質，場合の数と確率の２項目に対応した出題とし，全てを解答する。	70分(100点)
	②	『数学Ⅱ，数学B，数学C』	・「数学B」及び「数学C」については，数列（数学B），統計的な推測（数学B），ベクトル（数学C）及び平面上の曲線と複素数平面（数学C）の４項目に対応した出題とし，４項目のうち３項目の内容の問題を選択解答する。	70分(100点)
理科		『物理基礎／化学基礎／ 生物基礎／地学基礎』 『物　　理』 『化　　学』 『生　　物』 『地　　学』	・左記出題科目の５科目のうちから最大２科目を選択し，解答する。 ・『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は，「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」及び「地学基礎」の４つを出題範囲とし，そのうち２つを選択解答する（配点は各50点）。 ・受験する科目数は出願時に申し出ること。	１科目選択 60分(100点) ２科目選択 130分**（注３）** （うち解答時間120分） (200点)
外国語		『英　　語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中 国 語』 『韓 国 語』	・左記出題科目の５科目のうちから１科目を選択し，解答する。 ・『英語』は「英語コミュニケーションⅠ」，「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」を出題範囲とし，【リーディング】及び【リスニング】を出題する。受験者は，原則としてその両方を受験する。その他の科目については，『英語』に準じる出題範囲とし，【筆記】を出題する。 ・科目選択に当たり，『ドイツ語』，『フランス語』，『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配付を希望する場合は，出願時に申し出ること。	『英語』 【リーディング】 80分(100点) 【リスニング】 60分**（注４）** （うち解答時間30分） (100点) 『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』 【筆記】 80分(200点)
情報		『情 報 Ⅰ』		60分(100点)

（備考）『　』は大学入学共通テストにおける出題科目を表し，「　」は高等学校学習指導要領上設定されている科目を表す。

また，『地理総合／歴史総合／公共』や『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』にある“／”は，一つの出題科目の中で複数の出題範囲を選択解答することを表す。

（注１）　『国語』の分野別の大問数及び配点は，近代以降の文章が３問 110 点，古典が２問 90 点（古文・漢文各 45 点）とする。

（注２）　地理歴史及び公民で２科目を選択する受験者が，(b)のうちから１科目及び(a)を選択する場合において，選択可能な組合せは以下のとおり。

・(b)のうちから『地理総合，地理探究』を選択する場合，(a)では「歴史総合」及び「公共」の組合せ
・(b)のうちから『歴史総合，日本史探究』又は『歴史総合，世界史探究』を選択する場合，(a)では「地理総合」及び「公共」の組合せ
・(b)のうちから『公共，倫理』又は『公共，政治・経済』を選択する場合，(a)では「地理総合」及び「歴史総合」の組合せ

［参考］地理歴史及び公民において，(b)のうちから１科目及び(a)を選択する場合に選択可能な組合せについて

○：選択可能　×：選択不可

		(a)		
		「地理総合」「歴史総合」	「地理総合」「公共」	「歴史総合」「公共」
(b)	『地理総合，地理探究』	×	×	○
	『歴史総合，日本史探究』	×	○	×
	『歴史総合，世界史探究』	×	○	×
	『公共，倫理』	○	×	×
	『公共，政治・経済』	○	×	×

（注３）　地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において２科目を選択する場合は，解答順に第１解答科目及び第２解答科目に区分し各 60 分間で解答を行うが，第１解答科目及び第２解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

（注４）　【リスニング】は，音声問題を用い 30 分間で解答を行うが，解答開始前に受験者に配付した IC プレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

なお，『英語』以外の外国語を受験した場合，【リスニング】を受験することはできない。

令和８年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

第１　問題作成の基本的な考え方

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は，大学（専門職大学及び短期大学（専門職短期大学を含む。以下同じ。）を含む。以下同じ。）への入学志願者を対象に，高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握するという目的の下，各大学が実施する試験等との組合せにより，大学教育を受けるためにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するよう，以下を基本的な考え方として作成する。

１．大学への入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた，知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成

大学で学修するために共通して必要となる，高等学校の段階において身に付けた基礎的な力を問う問題を作成する。

特に，高等学校学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」を通して育成することとされている，深い理解を伴った知識の質を問う問題や，知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。その際，言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等を，教科等横断的に育成することとされていることについても留意する。

２．各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視した問題の作成

１に示した知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できるよう，出題科目の特質に応じた学習の過程を重視し，問題の構成や場面設定等を工夫する。

例えば，社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する場面，資料やデータ等を基に考察する場面，考察したことを整理して表現しようとする場面などを設定することによって，探究的に学んだり協働的に課題に取り組んだりする過程を，問題作成に効果的に取り入れる。

３．多様な入学志願者の学力を適切に評価する問題の作成

２に示す問題作成の工夫を重視した上で，多様な入学志願者が十分に力を発揮し，１に示す知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題となるよう，構成や内容，分量，表現等に配慮する。

その際，これまで良質な問題作成を行う中で蓄積した知見や，問題の評価・分析の結果を問題作成に生かすようにする。

第２　問題の構成・内容等

１．問題の構成・内容

「令和８年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」を踏まえた構成・内容とする。問題の作成に当たっては,「第１」に示す問題作成の基本的な考え方を踏まえつつ，高等学校学習指導要領に準拠するとともに，高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし，特定の事項や分野に偏りが生じないように留意する。

なお,「第１」の１に示した，知識・技能や思考力・判断力・表現力等を新たな場面でも発揮できるかを問うため，教科書等で扱われていない資料等も扱う場合がある。

２．問題の分量・程度

問題の分量は，試験時間に応じた適切なものとなるように配慮する。

出題教科・科目に選択科目，選択問題がある場合は，選択科目間及び科目内選択問題間の平均得点率に著しい差が生じないように配慮する。

３．問題の表現・体裁

障害等のある入学志願者を含め，全ての入学志願者が問題に取り組みやすくなるよう，問いかけの在り方や資料の提示の仕方，レイアウトの工夫等，問題の表現・体裁について配慮する。

４．出題形式

多肢選択式又は数値や記号等で解答する形式により出題する。なお，いわゆる連動型の問題（連続する複数の問いにおいて，前問の答えとその後の問いの答えを組み合わせて解答させ，正答となる組合せが複数ある形式）を出題する場合がある。

第３　問題作成における障害等のある入学志願者に対する配慮

問題の作成に当たっては，障害等のある入学志願者が情報を読み取ったり解答したりする過程で想定される様々な困難さを考慮したものとする。

また，障害等のある入学志願者に対する合理的な配慮を行うため，受験上の配慮事項を踏まえた問題（点字問題，拡大文字問題）の作成等を行う。

第４　出題教科・科目の問題作成の方針

各出題教科・科目の問題は，上記の第１～第３に加え，以下に示す各出題教科・科目の問題作成の方針に基づき作成する。

１．国語

『国語』

○　言語を手掛かりとしながら，文章の内容を多面的･多角的な視点から解釈したり，目的や場面等に応じて，情報を的確に理解したり，より効果的な表現に向けて検討，工夫したりする力などを求める。近代以降の文章(論理的な文章や実用的な文章，文学的な文章)，古典(古文，漢文)を題材とし，言葉による記録，要約，説明，論述，話合い等の言語活動を重視する。

問題の作成に当たっては，題材の意義や特質を生かした出題とするとともに，大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく，異なる種類や分野の文章などを組み合わせた，複数の題材による問題を含めて検討する。

２．地理歴史

『地理総合，地理探究』，『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」部分

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

地理的な見方・考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合，地理探究』では，「地理総合」で学習したことと，それを基に「地理探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

『歴史総合，日本史探究』，『歴史総合，世界史探究』，『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」部分

○　歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことと，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

３．公民

『公共，倫理』

○　「公共」は，人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現実社会の諸課題の解決に向け，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用し，文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。

問題の作成に当たっては，現実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題，多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。

○　「倫理」は，人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ，現代の倫理的諸課題を見いだし，その解決に向け，多面的・多角的に考察したり，公正に判断し構想したりする過程を重視する。

「公共」での学習などを踏まえ，倫理に関する概念や理論についての理解を深め，それらを活用して，考察する力を求める。

問題の作成に当たっては，倫理的課題の解決に向け，先哲の思想に関する原典など多様な資料や他者との対話等を手掛かりにして，批判的に吟味して思索を深めたり，様々な立場から考察したりする問題などを含めて検討する。

『公共，政治・経済』

○　「公共」は，人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現実社会の諸課題の解決に向け，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用し，文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。

問題の作成に当たっては，現実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題，多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。

○　「政治・経済」は，社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現代における日本及び国際社会の諸課題の解決に向け，政治と経済を関連させて，多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

「公共」での学習などを踏まえ，「政治・経済」の学習によって深められた理解を基に政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。

問題の作成に当たっては，各種統計などの多様な資料，様々な立場に立って話し合う場面等から必要な情報を読み取り，考察する問題などを含めて検討する。

『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」部分

○　「公共」は，人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現実社会の諸課題の解決に向け，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用し，文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。

問題の作成に当たっては，現実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題，多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。

４．数学

『数学Ⅰ，数学Ａ』，『数学Ⅰ』，『数学Ⅱ，数学Ｂ，数学Ｃ』

○　数学の問題発見・解決の過程を重視する。事象を数理的に捉え，数学の問題を見いだすこと，解決の見通しをもつこと，目的に応じて数，式，図，表，グラフなどの数学的な表現を用いて処理すること，及び解決過程を振り返り，得られた結果を意味づけたり，活用したり，統合的・発展的に考察したりすることなどを求める。

問題の作成に当たっては，数学における概念や原理を基に考察したり，数学のよさを認識できたりするような題材等を含め検討する。例えば，日常生活や社会の事象など様々な事象を数理的に捉え，数学的に処理できる題材，教科書等では扱われていない数学の定理等を既習の知識等を活用しながら導くことのできるような題材が考えられる。

５．理科

『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』

○　科学の基本的な概念や原理・法則に関する理解を基に，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究する過程を重視する。

問題の作成に当たっては，基本的な概念や原理･法則の理解を問う問題とともに，日常生活や社会の身近な課題等について科学的に探究する問題や，得られたデータを整理する過程などにおいて数学的な手法等を用いる問題などを含めて検討する。

『物理』，『化学』，『生物』，『地学』

○　科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり，課題の解決に向けて考察・推論したりするなど，科学的に探究する過程を重視する。

問題の作成に当たっては，基本的な概念や原理･法則の理解を問う問題とともに，観察，実験，調査の結果などを数学的な手法等を活用して分析し解釈する力を問う問題や，受験者にとって既知ではないものも含めた資料などに示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題などを含めて検討する。その際，基礎を付した科目の内容との関連も考慮する。

６．外国語

『英語』

○　高大接続改革の中で，高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ，各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において，「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は，「リーディング」形式と「リスニング」形式の問題を通して，文字や音声による試験の特徴を生かしながら，以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。

・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。

・併せて，高等学校において，英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと［やり取り］,［発表］」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ，情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために，理解した情報や考えを整理したり，何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。

・また，コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙，表現，文法等に関する知識や技能についても，上記の力を問うことを通して引き続き評価する。

○　「リーディング」,「リスニング」ともに，共通テストの問題のレベルは，出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」,「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例，言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際，多様な入学志願者の学力を適切に識別できるよう，引き続き，CEFR の概ね A1～B1 レベルを目安として問題のテクスト，使用する語彙，タスクなどを設定し，問題を作成することとする。

○　「リーディング」の表記については，現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて，場面設定によってイギリス英語を使用することもある。

○　「リスニング」の音声については，多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。また，読み上げ回数については，１回読みと２回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

英語以外の外国語（『ドイツ語』,『フランス語』,『中国語』,『韓国語』）

○　英語以外の外国語については,『筆記』テストを課し,「リスニング」テストは実施しないが，以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。

・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。

・併せて，高等学校において,「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと［やり取り］,［発表］」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ，情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために，理解した情報や考えを整理したり, 何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。

・また，コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても，引き続き評価する。

○　問題は, 高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし, CEFR 等を参考に作成する。

また，大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが，高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し，多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

７．情報

『情報Ⅰ』

○　日常的な事象や社会的な事象などを情報とその結び付きとして捉え，情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けて探究する活動の過程，及び情報社会と人との関わりを重視する。

問題の作成に当たっては，社会や身近な生活の中の題材，及び受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について，情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに，問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。

○　プログラミングに関する問題を出題する際のプログラム表記は，授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから，受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自のプログラム表記を用いる。